

平成24年度
宗像医師会

在宅医療連携拠点事業
成果報告

宗像医師会

在宅医療連携拠点事業室

むーみんネット

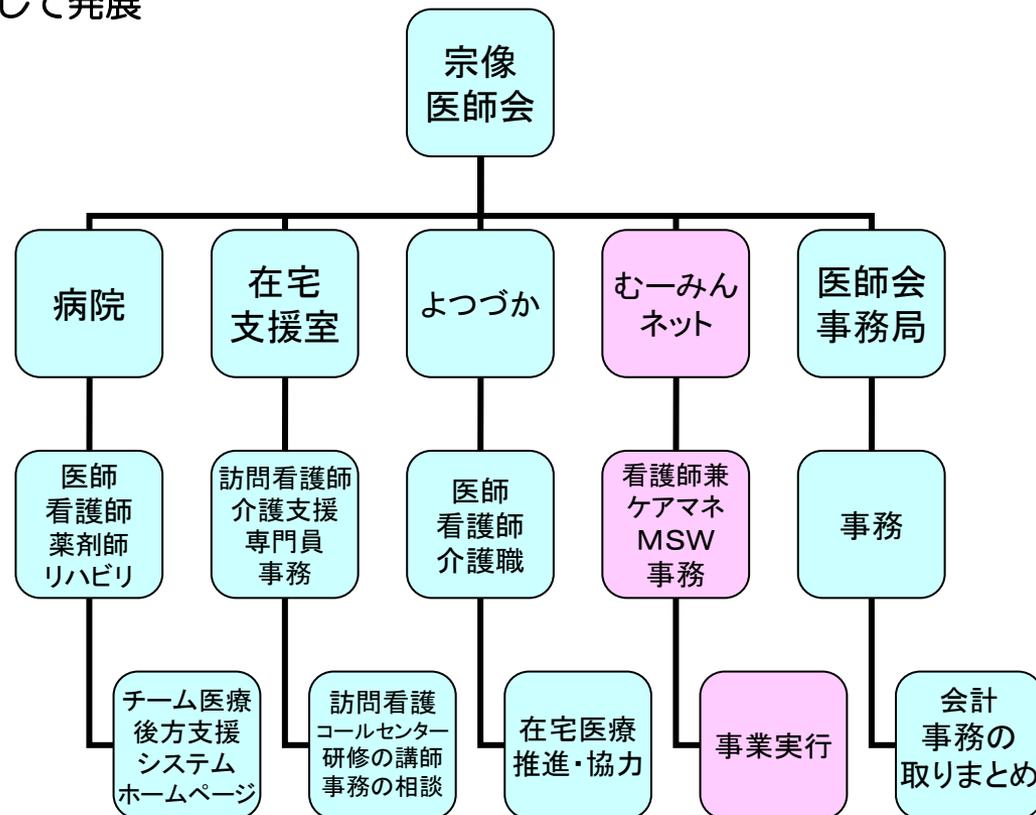
2013. 3月

宗像医師会在宅医療連携拠点事業室

福岡市と北九州市の間に位置しベッドタウンとして発展
大島や地島も地域に含む



組織図



むなかた地区(宗像市・福津市)

人口 約 15万人
面積 約 172km²
高齢化率 約 25%

スタッフ


介護支援専門員・
看護師(常勤)


MSW(常勤)


事務員(パート)

宗像医師会としての強み

- 共同利用施設内での協力体制
【医師会病院・介護老人保健施設・在宅支援室（訪問看護ステーション・ケアプランサービス）】
- 地域に根ざした医療と看護の活動
【在宅診療をしている複数の医師の存在・地域に密着した先駆的な取り組みをしている訪問看護ステーション】
- 行政・職能団体との構築された関係性
【保健福祉環境事務所・宗像市・福津市・薬剤師会・歯科医師会等】
- 住民への普及・啓発活動
【在宅医療のテーマに取り組みやすい】

拠点事業運営委員会(年4回)

プロジェクト委員会(毎月開催)

地域の課題と対策

目標	課題	対策
①在宅医の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●在宅医の不足 ●熱心な医師の負担大 ●バックベットの確保ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ●1人の患者を複数の在宅医が担当し、医師の負担を軽減 ●医師間の情報共有
②専門職の技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●医療ニーズの高い療養者の支援に対して専門職が自信を持ってない 	<ul style="list-style-type: none"> ●看護・介護・薬剤師等へのスキルアップ研修の実施
③関係機関の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ●医療と介護の連携ができない ●情報共有ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ●後方支援病院との連携促進 ●顔の見える関係づくり (医療と介護を結ぶ) ●IT・資源マップを利用した情報共有 ●各職種との連携に向けた取り組み
④住民意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●住民は、在宅療養や在宅看取りという選択肢を知らない 	<ul style="list-style-type: none"> ●住民啓発 ●社会資源の情報提供
⑤災害対策支援	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の災害への取り組みが見えない 	<ul style="list-style-type: none"> ●取り組みについての情報共有
⑥相談支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ●住民および専門職が、在宅医療について相談できる窓口がない 	<ul style="list-style-type: none"> ●相談窓口の設置

②専門職の技術の向上

●職種別研修

実施日	対象者	テーマ	参加者
7/13	訪問看護師・薬剤師	「スキンケア・褥瘡ケア」	45
8/9	介護職	「看護の視点を生かした高齢者ケア」	81
9/27	介護・看護職員	「慢性腎不全・透析に関する学習会1」	77
10/11	介護支援専門員	「地域包括支援センターの困難事例」	71
11/14	医師	「事例検討会」医師間の連携	27
2/14	訪問看護師	「事例検討会」	35
3/7	介護・看護職員	「慢性腎不全・透析に関する学習会2」	85

- 職種が抱える課題に焦点をあてたテーマを設定
- 在宅医療を支えるスタッフのスキルアップ
- 多数の参加者と継続研修を熱望
- 「同じ研修を職場研修でしてほしい」「企画や構成を参考にしたい」などの高い評価



③関係機関の連携促進



●多職種合同研修(2回)

実施日	対象者	テーマ	参加者
12/6	多職種	「介護職との連携」	80
3/12	多職種	「噛む」	

- グループワークを介して多職種間の顔の見える関係づくり
- 多職種間の事例検討は、職種による視点の違いが新たな気づきにつながった

●資源ガイド・在宅支援ネットワークマニュアル作成



- 医療機関・介護事業所の資源ガイドを作成
 - CDを関係機関に配布
 - マップはホームページにも掲載
 - 診療機能情報の作成(拠点で管理)
- 在宅支援ネットワークマニュアル(薬剤・医療材料供給システム、在宅医連携マニュアル、災害支援情報)を作成

●ホームページ開設



- 9月に開設、アクセスの増加
- 2月はシンポジウムの効果で「開催行事」「介護事業所マップ」へのアクセス増加
- 新規登録の依頼

●iPadを使ったシステム開発中!



- 在宅医・訪問看護師・ケアマネジャー・薬剤師・病院職員で2月よりシステムを開発し7人を登録、試験運用中

月	9	10	11	12	1	2
アクセス数	867	1083	1457	1394	1416	2040

④住民意識の向上

●在宅医療シンポジウム(2回)計550人



●パンフレット

- 第1回のテーマ「あなたの家にかえろう」 参加者130人
- 第2回のテーマ「“終の棲家”について一緒に考えてみませんか」 参加者420人
→参加した住民からは「在宅での療養でも、様々な支援がそろっていることがわかった」
「残された最期を住み慣れた家で過ごすことを考えてみたい」と好評であった
- 多くの住民に参加していただくため無料健康測定コーナーを設置
- 相談コーナーを設置し、在宅医師・訪問看護師・ケアマネジャー・ソーシャルワーカーが住民相談を実施

●在宅ホスピスを語る会(参加者56人)



- 在宅看取りをされた方の体験談
- 在宅療養を選択したきっかけ
苦労したこと看取り後の思い
などの話
- 質疑応答が盛んに行なわれ、
住民の意識の高さを認識
- ピアノ演奏・プチケーキ・
花で和やかな雰囲気を演出

●老人クラブの会合に参加(6回)計300人



- 地域包括支援センターの
依頼で事業開始
- 「在宅医療」という選択肢
を説明
- 住民の意識が高いことを
実感

⑤災害対策支援

11月29日(第1回 参加者 52人)医療依存度の高い方への支援

12月13日(第2回 参加者 48人)行政・消防署の取り組み

1月25日(第3回 参加者 32人)難病の方への支援(保健福祉環境事務所共催)



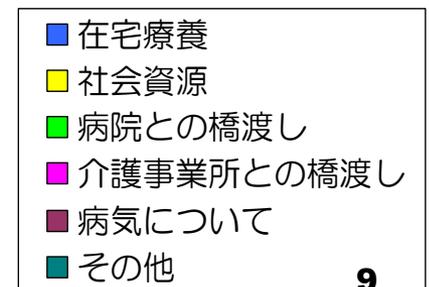
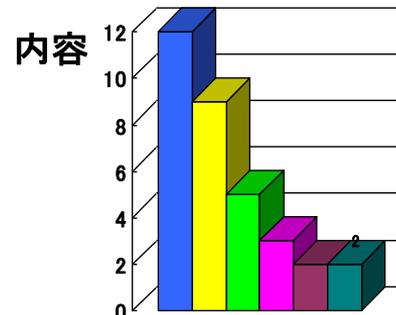
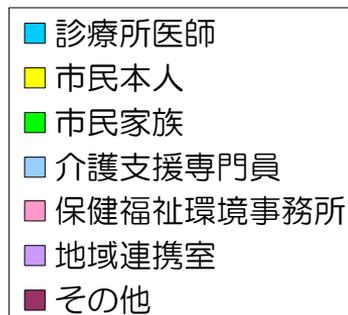
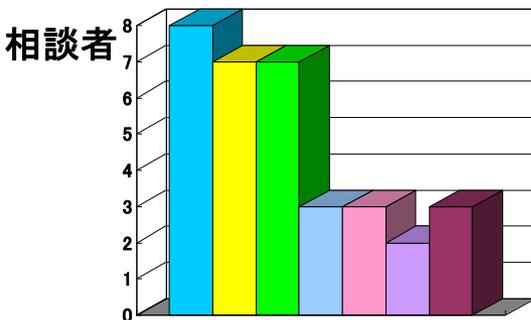
- 報告会の前に、介護支援専門員・地域包括支援センターに災害時要援護者把握のためのアンケート実施
→それぞれの取り組みについて情報共有の要望が多く、報告会を開催
- 報告会后に災害時必要備品を検討し配置

⑥相談支援体制の構築



相談風景

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	3	6	1	5	3	5	5	5		34



【拠点活動の成果】

- ①一事業所では実施困難な多職種連携について拠点がリーダーシップをとり、コーディネートできた
- ②在宅医療支援ネットワークマニュアルの活用により多職種24時間連携体制が始動
- ③地域の小さな活動から大規模なシンポジウムまでを企画・実施し、「在宅医療」という選択肢について住民へ普及啓発できた
- ④資源ガイドの配布、ホームページの開設、ITを利用した情報共有は、在宅医療・多職種連携の推進に効果を発揮
- ⑤災害対策については、初めての試みであったが行政・企業・医療・介護の職種を越えてとても学びの多い研修となった

- 1年間の活動で、多くの方に「むーみんネット」の名前を知ってもらえることができた
- 地域住民・支援スタッフがもともと持っている大きな「むなかた力」という基盤が「むーみんネット」事業のエネルギー源となった
- 病気をもちつつも住み慣れたこの「むなかた」の地で過ごせる在宅のシステムを、地域住民・支援スタッフとともにさらに発展させていきたい

【今後の展望】

- ①事業の継続と拡充
(点を線に→線を面に)
さらなる多職種連携のコーディネート
- ②24時間在宅医療を支えるシステムの構築
 - ・在宅医療を担う医師の増加
 - ・マニュアル周知とさらなる活用
 - ・ITを利用した情報共有システム本格稼働へ
- ③相談支援体制の充実と在宅医療現場へのアウトリーチ
- ④民生委員・ボランティア団体等、地域活動との連携を構築
- ⑤行政機関との連携および役割分担
- ⑥住民啓発の継続
- ⑦災害対策支援の継続
- ⑧地域リーダー研修への協力